

大淀中学校だより 『環』

祝 卒業

第 17 号
京都市立大淀中学校
令和 3 年 3 月 15 日
文責 油谷

『大淀中学校の誇れる卒業生102名』、学舎を巣立つ

3月15日、学舎「大淀中学校」を102名の卒業生が「新たな自分さがしの旅」に巣立っていきました。これまでの3年間、本当によく頑張ってくれました。卒業式から式辞や祝辞などをまとめました。

来賓祝辞 PTA 藤下洋明会長

令和二年度の卒業式に際しまして、PTAを代表致しましてお祝いの言葉を申し上げます。

卒業生のみなさん、本日はご卒業誠にありがとうございます。また、本日の卒業式に至るまで、お子様を立派に育ててこられました保護者の皆様、重ねてお祝い申し上げます。

三年前の春、君たちがこの大淀中学校の門をくぐった日のことが、昨日のことにように思われます。月日は流れ、あの日とは比較できないくらいに成長した君たちを今、目の前にし、充実した学校生活を送ったのだなと感じています。

卒業生のみなさん、大淀中学校で過ごした三年間はどうか。「最後の足跡」、何か残すことができましたでしょうか。過ぎ去りし日々を振り返れば、楽しかったことや嬉しかったこと、また、悔しかったことや悲しかったことなど、本当に色々なことがあったことでしょうか。特に最後の一年間は新型コロナウイルスによって、あらゆる生活様式が一変し、誰も経験したことのない苦難の一年間ではなかったかと思えます。そのような辛い環境の中でも、最後の合唱コンクールの冒頭に生徒代表が話していた「みんなコロナで嫌な思いをしているが、逆境を辛いと嘆くよりも、逆境を力にすることは、考え次第で絶対出来る」という力強いメッセージは、コロナに打ち勝とうとする君たちのバイタリティそのものであり、心の底から感動したことを覚えています。このような不自由な生活も含め、この三年間で君たちが経験したことは何物にも代えられない一生の宝物になると思えます。

クラス一丸となって取り組んだ体育大会や合唱コンクール、日々の学習の成果を出し切った定期テスト。そして、実施されるかどうか不安でたまらなかった末の修学旅行。力及ばず悔いの残ることもあったでしょうが、今となってはその全てが良い思い出ではないでしょうか。これらの経験は、君たちの人生において、素晴らしい糧となることでしょうか。この未曾有の国難の中、君たちは本当によく耐え、よく頑張ったと思えます。（一部省略）

今日までの様々な出来事を胸に、君たちは九年間の義務教育課程を修了し、これまで経験したことの無い、広い世界へと一歩を踏み出そうとしています。世界情勢が目まぐるしく変化する現代社会において、君たちには更に自己の能力を高め、的確に状況を判断し、困難な場面を乗り切っていくスキルが求められています。どのような状況下に身を置くことになっても、この大淀中学校で得た知識と経験が、君たちの今後の人生において大きなバックボーンとなることは間違いありません。その知識と経験を基に、理想の実現に向けて邁進して欲しいと思えます。

三年後、君たちが十八歳になれば、君たちには選挙権が与えられ、名実ともに社会人の仲間入りとなります。責任ある社会の一員と成るべく、精神的にも肉体的にも研鑽を積み上げ、より一層成長することを期待します。

この先の十年間は、君たちの生涯の中でも最も変化の激しい時期となるでしょう。人により変化の時期や内容は異なりますが、進学、就職、結婚、出産など、様々な人生の転機が訪れます。時には自分の力ではどうすることも出来ない、高い壁に遭遇することもあります。それを乗り越えるためにあらゆる努力を払っても、退かざるを得ない場面が必ず訪れます。もしこの先、どこかで行き詰り、進むべき道を迷うようなことがあれば、どうか思い出してください。君たちには、この大淀中学校で三年間を共にした仲間とお世話になった先生方、そして愛情にあふれる家族がいることを。そして、遠慮なく助けを求めてください。きっと誰もが喜んで君たちに力を貸してくれることでしょうか。君たちは決して一人ではありません。失敗を恐れることなく、自分が正しいと思う道を歩んで欲しいと思えます。

最後に私から君たちに、人生の先輩としてアドバイスです。

今日を最後に、君たちはこの大淀中学校を去ることになりますが、決して忘れ物を置いて帰らないでください。形あるものであれば、いつでも取りに戻すことは可能でしょう。

しかしながら、君たちの心の中の忘れ物は、今日を限りに取りに戻すことは出来ません。

先生や友人に感謝の気持ちを伝え忘れていませんか。些細なことで喧嘩をして、気まずいままの友人と仲直りするのを忘れていませんか。自分の気持ちを誤魔化し、相手に本心を伝えるのを忘れたことにして

いませんか。卒業証書を受け取り、最後に校門を出るまであと何分でしょうか。残された時間は本当にあと僅かです。

人間誰しもやったことに対する後悔はすぐに消えてしまいがちですが、やらなかったことに対する後悔は一生心の奥に残るものです。その後悔はどれだけ年齢を重ねても、心の奥から消えることはありません。

私もそうです。おそらく君たちの親御さんもそうだと思います。

「あの時こうしておけばよかった。」「なぜあの時こう言えなかったのだろう。」

今ならまだ間に合います。これから先、大人になっても後悔し続けることの無いよう、自分に正直に、まっすぐに己の内面と向き合ってください。そうすることで、君たちはより大きく、より強い人間に成長することが出来るはずです。コロナという逆境に立ち向かった君たちだからこそ、この難題を解決できるものだと信じています。

そして今日以降は大淀中学校の卒業生としての誇りを胸に刻み、立派な大人になってくれることを、心から願っています。

さて、校長先生をはじめ教職員の皆様、今日までの長きにわたり、子供たちへ愛情あふれるご指導を賜りました事、保護者を代表致しまして厚く御礼申し上げます。緊急事態宣言下での様々なイレギュラーな対応、新型コロナウイルスの感染予防対策に、心身ともに疲弊しながらご対応頂きましたこと、本当に感謝の言葉もございません。生徒を想う先生方の姿勢はきっと子供たちも感じ取っていると確信しております。そのような先生方の姿を見て大人になる子供たちは本当に幸せだと思います。これから先、この子供たちは先生方の教えを胸に人生の荒波に挑んでいくこととなります。もしこの子供たちが心折れ、再び先生方を頼ってきた際には、どうか再びお力を貸してやって頂きたい心よりお願いを申し上げます。

本日ご臨席を賜りました地域諸団体の皆様、公私ともご多用のなか、子供たちのためにご足労を頂き誠にありがとうございました。子供たちがこの地域の更なる活力として成長していけますよう、これまで同様に卒業生ならびに在校生への温かいご指導と励ましを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、本日卒業する大淀中学校 第四十六期生の輝かしい未来と、本日ここに集われたすべての方々のご多幸を祈念致しまして、祝辞とさせていただきます。

令和三年 三月 十五日
京都市立大淀中学校 P T A
会長 藤下 洋明

答辞 前生徒会長 I. N

淀の河津桜は私達の卒業に花を添えるかのように、綺麗な花を咲かせています。麗らかな春の光とそよ風に暖かな春を感じながら、私達 102名は卒業します。瞬く間に過ぎ去った三年間。その中で紡がれた数々の思い出が、つい最近の事のように思い出されます。

入学式。そこから私達の中学校生活の幕が上がりました。一年生の頃は新しい環境にすぐに慣れることはできず、仲間とすれ違うことも多くありました。友達同士で笑い合うことも今と比べれば少なかったことを覚えています。

互いの距離を測りかねていた私達を大きく変えてくれたのが学校行事の数々です。学年での初めての行事だった友愛の丘での校外学習。クラス対抗で行った大縄跳び大会では、どのクラスもあまり飛ぶことができず、学年全体の一体感はまだまだありませんでした。ですが、様々な行事を重ねていくうちに、学年が団結していく兆しの見える一年でもありました。

二年生。クラスも変わり、最初こそぎこちない雰囲気ではありましたが、一度生まれた絆が消えることはなく、すぐにまた打ち解け合うことができました。しかし、仲良くなる一方で、他愛のない触れ合いから喧嘩やトラブルを招いてしまうことが増え、お互いを傷つけ合ってしまった。そんな私達を成長させてくれたのが「職業体験」です。大人として扱われ、大人と共に働くという経験は進級した私達に足りなかったものを気付かせてくれました。それはこれからの大淀中学校は自分達が背負っていくんだという自覚です。後輩を持つということの責任感は委員会活動など様々な場面で役立ちました。

二年間はあっという間にすぎ、気付けば最高学年の三年生。また、あの当たり前の日々を送れるものだと思っていました。私達に突如として降りかかった新型コロナウイルス。部活動の大会や学校行事の多くが中止、縮小をやむなくされ、始業も二ヶ月も遅れることになりました。最後の一年のスタートを華々しく切るはずだった四月・五月が失われることになり、そのやるせなさに歯がゆい思いをしました。三年生にとっての一大イベントである修学旅行も沖縄から行き先が変更となり、四国方面への旅となりました。

しかし、私達は逆境に挫けることなく、準備を委員と協力し、修学旅行への楽しみを募らせていました。皆の顔から笑顔が絶えたことは一度もありませんでした。(次号へ続きます)